

新人保育士と保育所長の紙芝居に対する考え方と その相違に関する分析

正 司 顯 好・渡 邊 裕

Analysis of Difference in Understanding about Kamishibai between Nursery and Childcare Director

SHOSU Akiyoshi, WATANABE Hiroshi

キーワード：紙芝居、保育活動、新人保育士、
保育所長、現職研修

1. はじめに

子どもたちが言葉を獲得していく過程で、絵本や紙芝居が果たす役割は大きいと考えられるが、子どもに直接かかわる保育の現場においても、依然として絵本と紙芝居の特性の違いについての理解が深められていないことが指摘されている（正司 2014、正司 2015）。もし両者の特性の違いが理解され、適切な場面で絵本や紙芝居を有効に活用することができれば、保育現場における教育活動はより充実したものになることが期待される。共感の世界を広げるといわれる紙芝居は、適切に活用することで幼児教育におけるアクティブラーニングの一つの手段として応用することも可能であると考えられる。

絵本と紙芝居の特性が保育現場で理解されていない理由として、幼稚園や保育所に携わる教員や保育士がそれぞれの違いを学習する機会が少なく、よくわからないままに活用してしまっているという点が指摘されている。大元（2013）は、保育の場での紙芝居は日常の活動の中に埋もれており、次の活動への時間のつなぎであったり、子どもたちの気持ちを落ち着かせるために用いられることが多いことを指摘している。多忙な現場においては、絵本や紙芝居はそれぞれの特性が十分に

理解されないままに演じられていることが推測される。

これを改善するための方法として、保育所の現職保育士を対象とした研修会や講習会を実施し、正しい使い方を広める活動を実施することが挙げられる。しかし保育所の教育方針を決めるのは保育所長クラスの管理職であり、保育所に勤務する新人保育士との間に認識のずれがあると、運用としてうまくいかなくなる可能性もある。新人保育士や保育所長が紙芝居に対してどのような理解と意識を持っており、研修会を実施することでどのような効果が得られるのかを検証することで、より効果的な研修会の内容を検討することができ、保育現場で絵本と紙芝居の効果的な活用を拡げることができるものと考えられる。

そこで本研究では、新人保育士を対象とした研修会と保育所長を対象とした研修会を同様の内容で別々に開催し、アンケート調査を実施することで新人保育士と保育所長の紙芝居に対する理解や意識の違いについて分析を行った。

2. 研究の方法

2.1 研修会の実施

(1) 新人保育士（埼玉県私立保育園連盟）対象
研修会の実施

日時：2016年5月26日 14時～15時30分
(90分間)

対象者：埼玉県内の私立保育園に勤務する新人保育士 60名

場所：さいたま市民会館うらわ集会所

講師：中平順子（さいたま紙芝居研究会会長）

正司顯好（埼玉東萌短期大学幼児保育学科学科長・教授）

(2) 保育所長（さいたま市立保育所所長会）対象研修会の実施

日時：2016年6月20日 13時～14時00分（60分間）

対象者：さいたま市立保育所に勤務する現職の保育所長 61名

場所：さいたま市立教育研究所ホール

講師：酒井京子（紙芝居文化の会会長）

正司顯好（埼玉東萌短期大学幼児保育学科学科長・教授）

2.2 研修会のテーマと内容

(1) テーマ

「子どもたちが言葉を獲得していく過程における紙芝居の役割について」

(2) 内容

- ①絵本と紙芝居の形式と特性の違い
- ②観客型参加と物語完結型の紙芝居
- ③紙芝居の作品理解と実践の基本
- ④舞台を使って紙芝居を演じることの基本
- ⑤保育現場におけるおすすめ紙芝居

(3) 実演に使った紙芝居

- ①「こぶたのけんか」
作：高橋五山、絵：赤坂三好
- ②「おおきくおおきくおおきくなあれ」
作・絵：まっいのりこ
- ③「ひよこちゃん」 原作：チュコフスキー、
脚本：小林純一、絵：二俣英五郎

(4) 読み語りに使った絵本

- ①「おいしいのぼうけん」
作：古田足日、絵：田畑精一
- ②「100万回生きたねこ」作・絵：佐野洋子

2.3 アンケート調査

それぞれの研修会終了後に現地にて同じ質問紙を配布し、無記名式のアンケート調査を実施した。質問内容は、「A 受講生の属性に関する質問」、「B 紙芝居の実践経験に関する経験」、「C 紙芝居の意識に関する質問」、「D 紙芝居研修会に参加しての自由記述」の4つの項目について行った。A～Cについては、新人保育士対象研修会では欠測値を除く52名、保育所長対象研修会では41名の有効回答を得た。Dについては、新人保育士対象研修会では38名、保育所長対象研修会では30名の有効回答を得た。各項目の質問内容詳細は以下の通りである。

A 受講生の属性に関する質問

年齢（「1. 30代未満」「2. 30代」「3. 40代」「4. 50代以上」の4択）、勤続年数（「1年未満」「1～2年」「2～3年」「3～20年」「20～30年」「30年以上」の6択）について調査した。

B 紙芝居の実践状況に関する経験

「紙芝居と絵本の区別（1問）」、「紙芝居の実践経験（1問）」、「紙芝居舞台の使用有無（1問）」について、2件法（1. はい、2. いいえ）で実施した。

C 紙芝居の意識に関する質問

「1. 保育活動に用いることへの関心（2問）」、「保育活動に用いることへの意欲（2問）」、「紙芝居の有用性（3問）」、「紙芝居の特性についての理解（3問）」、「紙芝居学習への意欲（2問）」の計12項目について、4件法（1. そう思わない、2. あまりそう思わない、3. ややそう思う、4. そう思う）で実施した。

D 紙芝居研修会に参加しての自由記述

新人保育士、保育所長とも、紙芝居研修会に参加しての感想を自由記述形式で意見を述べてもらった。

2.4 分析方法

「A 受講生の属性に関する質問」については度数分布を求めた。「B 紙芝居の実践経験に関

表1 受講生の年齢構成

項目	有効回答数	30代未満	30代	40代	50代
新人	52	49	2	1	0
所長	41	0	0	0	41

表2 受講生の勤続年数

項目	有効回答数	1年未満	1～2年	2～3年	3～20年	20～30年	30年以上
新人	52	28	19	3	2	0	0
所長	41	0	0	0	0	2	39

する経験」については、肯定的回答数（はい）と否定的回答数（いいえ）の偏りを調べるために、正確二項検定による直接確率計算（両側検定）を行った。また、「C 紙芝居の意識に関する質問」については、「そう思わない」を1、「あまりそう思わない」を2、「ややそう思う」を3、「そう思う」を4として平均値を算出し、各項目について中央値（2.5）を母平均とするt検定を実施した。さらに、各項目の新人保育士と保育所長の平均値に差異がみられるのかどうかを調べるために1要因分散分析（参加者間）を実施した。「D 紙芝居研修会に参加しての自由記述」については、文章で述べられている意味を読み取り、複数の回答のパターン文を作成した。さらにパターン文を8つのカテゴリに分け、複数回答項目として分類した。これをもとに、自由記述の文章を複数回答項目に置き換え、回答数を集計することで分析を行った。

3. 結果

3.1 受講生の属性

表1に新人保育士（以下、新人）と保育所長（以下、所長）の年齢構成を示す。新人は52名中49名が30代未満であり、所長は41名全員が50代以上であった。

表2に新人と所長の勤続年数を示す。新人は52名のうち勤続1年未満が28名、勤続1～2年が19名であり、所長は41名のうち39名が勤続30年以上のベテランであった。

3.2 紙芝居の実践状況

表3に新人に対して行った紙芝居の実践状況に関する調査の質問項目、有効回答数*N*、平均値*M*、標準偏差*SD*、肯定的回答数、否定的回答数、および出現確率（両側検定）の結果を示す。また表4に所長に対して行った調査の結果を示す。

表3 新人保育士の紙芝居実践状況

カテゴリ	質問項目内容	有効回答数 <i>N</i>	平均値 <i>M</i> (標準偏差 <i>SD</i>)	肯定的回答数 (はい)	否定的回答数 (いいえ)	出現確率 (両側検定)
紙芝居と絵本の区別	紙芝居と絵本をこれまでの保育の中で区別していましたか	52	1.58 (0.49)	30	22	$p=0.332$ <i>n.s.</i>
紙芝居の経験	これまでに紙芝居を演じたことがありますか	52	1.90 (0.29)	47	5	$p=0.000$ ***
舞台の使用	これまで紙芝居を演じるときに舞台を使って演じたことがありますか	52	1.15 (0.36)	8	44	$p=0.000$ ***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表4 保育所長の紙芝居実践状況

カテゴリ	質問項目内容	有効回答数 <i>N</i>	平均値 <i>M</i> (標準偏差 <i>SD</i>)	肯定的回答数 (はい)	否定的回答数 (いいえ)	出現確率 (両側検定)
紙芝居と絵本の区別	紙芝居と絵本をこれまでの保育の中で区別していましたか	41	1.71 (0.45)	29	12	$p=0.012$ *
紙芝居の経験	これまでに紙芝居を演じたことがありますか	41	2.00 (0.00)	41	0	$p=0.000$ ***
舞台の使用	これまで紙芝居を演じるときに舞台を使って演じたことがありますか	41	1.85 (0.35)	35	6	$p=0.000$ ***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

紙芝居と絵本をこれまでの保育の中で区別して用いていたかどうかについて尋ねた質問では、新人は肯定的回答数が30名、否定的回答数が22名であり、検定の結果、有意差は認められなかった。一方、所長は肯定的回答数が29名、否定的回答数が12名であり、検定の結果、肯定的回答の方が否定的回答よりも有意 ($p < .05$) に多かった。紙芝居と絵本には、教材としての大きな特性の違いが存在する。すなわち、絵本は紙面が綴じられており、ページをめくりながら読み進めるのに対して、紙芝居は紙面が独立し、演者が聴衆に対面して演じるという形式を取る。このように、紙芝居と絵本には教材としての特性の違いや使用方法上の違いが存在するにもかかわらず、今回の結果では、新人は紙芝居と絵本を保育の中で区別して使用するには至っていないことが示唆される。一方で、所長は紙芝居と絵本の特性の違いを認めた上で、紙芝居と絵本の使用場面や提示方法などを区別して使用していることが考えられる。

これまでに紙芝居を演じたことがあるかどうかについては、新人で演じたことがある者は47名、無い者は5名であり、検定の結果、ある者の方が無い者よりも有意 ($p < .001$) に多かった。一方、所長でこれまでに紙芝居を演じたことがある者は41名、無い者は0名であり、ある者の方が無い者よりも有意 ($p < .001$) に多かった。

紙芝居を演じるときに舞台を使って演じたことがあるかどうかについては、新人で舞台を使って演じたことがある者は8名、無い者は44名であり、検定の結果、有意差 ($p < .001$) が認められた。一方、所長で舞台を使って演じたことがある

者は35名、無い者は6名であり、検定の結果、有意差 ($p < .001$) が認められた。

3.3 研修会後の紙芝居に対する意識

表5に新人と所長それぞれに対して行った紙芝居の意識に関する調査の質問項目、有効回答数 *N*、平均値 *M*、標準偏差 *SD*、出現確率 *p* (中央値 (2.5) を母平均とする *t* 検定) の結果を示す。新人については「C1 紙芝居を用いた保育活動に興味がある ($t(50) = 10.73, p < .001$)」をはじめ、すべての質問項目で有意差が認められた。また所長についても「C1 紙芝居を用いた保育活動に興味がある ($t(39) = 9.57, p < .001$)」をはじめ、すべての質問項目で有意差が認められた。

これらの項目の平均値から、新人、所長とも、すべての質問項目に対して肯定的な回答を示していることがわかる。したがって、今回の講習会を受講したことで、新人および所長は、保育活動に紙芝居を用いることへの関心や意欲が高まり、紙芝居の有用性を認識し、その特性への理解が深まり、紙芝居学習への意欲が高まった可能性のあることが示唆される。

表5 新人および所長の紙芝居に対する意識

カテゴリ	質問番号	項目	新人				所長			
			N	M	SD	p	N	M	SD	p
保育活動に紙芝居を用いることへの関心	C 1	紙芝居を用いた保育活動に興味がある	52	3.62	0.52	***	41	3.63	0.53	***
	C 2	紙芝居を保護者参加の保育活動で使っていくことに関心がある	52	3.44	0.60	***	41	3.54	0.55	***
保育活動に紙芝居を用いることへの意欲	C 3	紙芝居をこれからの保育に役立てたい	52	3.83	0.38	***	41	3.80	0.45	***
	C 4	紙芝居を毎月のお誕生会に役立てたい	52	3.23	0.58	***	41	2.80	0.67	**
紙芝居の有用性	C 5	子どもが言葉を獲得するために紙芝居は役立つ	52	3.73	0.48	***	41	3.80	0.40	***
	C 6	子どもが言葉によって心をはぐくむために紙芝居は役立つ	52	3.71	0.45	***	41	3.83	0.38	***
	C 7	紙芝居は絵本よりも協同保育に向いている	52	3.54	0.54	***	41	3.56	0.54	***
紙芝居の特性についての理解	C 8	紙芝居の形式と特性について学んだ	52	3.87	0.34	***	41	3.76	0.43	***
	C 9	紙芝居と絵本の形式と特性の違いについて学んだ	52	3.83	0.38	***	41	3.76	0.43	***
	C 10	紙芝居の基本的な演じ方について学んだ	52	3.71	0.45	***	41	3.59	0.62	***
紙芝居学習への意欲	C 11	紙芝居の講習会にもっと参加してみたい	52	3.37	0.52	***	41	3.24	0.58	***
	C 12	さらに紙芝居の演じ方について個人的に学んでみたい	52	3.31	0.54	***	41	3.15	0.61	***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

3.4 紙芝居講習会を受講しての自由記述

表6に新人と所長による自由記述の意見に対する集計結果を示す。新人による回答文および保育所長による回答文は、それぞれ自由記述から意味を読み取り、抽出したパターン文である。また、これらのパターン文の内容から、「保育活動に紙芝居を用いることへの関心意欲」「紙芝居舞台の利用」「紙芝居の演じ方への関心」「紙芝居の特性理解への深まり」「絵本と紙芝居の良さと違い」「紙芝居への興味」「研修会参加の感想」「その他」という8つのカテゴリを作成し、パターン文を分類した。

新人では38名から自由記述の有効回答があり、これらの記述から28個のパターン文を作成し、77件の複数回答を得た。新人一人あたりの回答数は2.03件であった。また所長では30名から自由記述の有効回答があり、これらの記述から21個のパターン文を作成し、52件の複数回答を得た。所長一人あたりの回答数は1.73件であった。

新人による記述で最も多かったカテゴリは「保育活動に紙芝居を用いることへの関心意欲」の32.5%、2番目は「紙芝居の特性理解への深ま

り」の18.2%、3番目は「絵本と紙芝居の良さと違い」の15.6%であった。また所長による記述で最も多かったカテゴリは「紙芝居舞台の利用」の23.1%、2番目が「研修会参加の感想」の21.2%、3番目が「保育活動に紙芝居を用いることへの関心意欲」の17.3%であった。

表6 新人と所長による自由記述内容の分類結果

カテゴリ	新人保育士の回答パターン文	回答数	カテゴリ 合計	保育所長の回答パターン文	回答数	カテゴリ 合計
1. 保育活動に紙芝居を用いることへの関心意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだことを今後の活動にとりいれていきたい ・紙芝居作品を読み込んでから演じたい ・絵本や紙芝居の特性を考えた上で役立てていきたい ・自分の保育園はどうなのか振り返ることができた ・紙芝居の利用について、園に働きかけをしていきたい 	16 4 3 1 1	25 (32.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・所長自らが園で紙芝居を実践して取り組みたい ・紙芝居の正しい演じ方を園内で広めていきたい ・今後の活動にとりいれていきたい 	4 4 1	9 (17.3%)
2. 紙芝居舞台の利用			0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台の大切さを学んだ ・紙芝居を演じるときに舞台を利用したい 	9 3	12 (23.1%)
3. 紙芝居の演じ方への関心	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生による紙芝居の演じ方が良かった ・紙芝居の演じ方を学んだ ・紙芝居の演じ方を自分なりに考えていきたい 	2 5 2	9 (11.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生による紙芝居の演じ方が良かった 	3	3 (5.8%)
4. 紙芝居の特性理解への深まり	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の特性や効果に対する理解が進んだ ・紙芝居を誤った使い方をしていたことに気がついた ・紙芝居の参加型・物語の完結型の違いがわかった ・紙芝居が綿密に計算されて構成されていることがわかった ・紙芝居の聞き手となることで勉強になった ・紙芝居作品を解説してもらうことで勉強になった 	5 2 1 3 1 2	14 (18.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の特性を知ることができてよかった ・紙芝居作家の深い思いを知った 	1 2	3 (5.8%)
5. 絵本と紙芝居の良さの違い	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と紙芝居の違いがわかった ・紙芝居や絵本の良さがわかった ・絵本と紙芝居それぞれの特性を活かして活用したい 	9 1 2	12 (15.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と紙芝居の違いがわかった ・紙芝居や絵本それぞれの良さがわかった ・絵本と紙芝居それぞれの特性を活かして活用したい 	2 1 1	4 (7.7%)
6. 紙芝居への興味	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の良さを感じた ・紙芝居で子どもたちとのかかわりを深めることを知った ・紙芝居の絵に対する興味が深まった ・紙芝居は子どもにも良い影響を与えると感じた ・紙芝居や絵本は子どもがコミュニケーションを取るのに大切だ 	1 1 1 1 1	5 (6.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の良さを感じた ・紙芝居を大切に演じていきたい ・紙芝居の楽しさや奥深さを知った ・意識して紙芝居を選んで演じていきたい ・紙芝居の特性や特色の話をもっとよく聴きたい 	1 1 2 1 2	7 (13.5%)
7. 研修会参加の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学んだことを思い出して貴重な時間であった ・今まで考えなかったことを学べた ・絵本や紙芝居について学べてよかった ・講習会で良い紙芝居や絵本を知ることができた ・研修会の中でのわらべ歌が良かった 	1 2 3 2 2	10 (13.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会は貴重な時間であった ・もっとたくさん話を聴きたいと思った ・お話や物語の世界は楽しいと思った 	6 4 1	11 (21.2%)
8. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・園では紙芝居を演じる機会が少ないのが残念だ 	2	2 (2.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・園では紙芝居を演じる機会が少ないのが残念だ ・紙芝居サミットに興味がある 	2 1	3 (5.8%)
計	—		77 (100%)	—		52 (100%)

4. 考察

4.1 研修会前の新人と所長の紙芝居に対する理解の相違

表3および表4の結果から、新人も所長も紙芝居を演じたことがある者がほとんどであった。ところが、新人は演じる際に舞台を使用したことが一度もないという者が多いのに対し、所長は舞台を使用して演じた経験のある者が多いことが明らかになった。

所長は保育の経験年数が長く、舞台を使用した経験もあることから、園においてある程度の紙芝居の舞台を保有していることも想像される。しかし、新人は紙芝居を演じた経験があるにもかかわらず、舞台を使用したことのある者が少ない。このことから、新人は園の中で紙芝居を演じる際に、園に舞台があるにも関わらず、それを用いないで演じていることが示唆される。また所長が新人に、舞台を用いることを勧めるといった教育も行われていない可能性も考えられる。

まついのりこ¹⁾は、紙芝居の舞台が紙芝居のもつ特性とどのように関係しているのかについて述べている。まず、舞台はその中に収められている作品世界と、外部の現実空間とを分ける役割をもっている。舞台があることで、紙芝居の存在がくっきりするので、観客は作品の内容に集中しやすくなる。一方で、舞台外部の現実空間には演じ手がいて、作品世界を臨場感のあるものとして観客に伝える役割をもつ。演じ手によって引き出された作品世界により、演じ手と観客、さらには観客と観客相互のコミュニケーションが生じ、作品世界への共感が深められ、強められるものと考えられる。このように、舞台は「紙芝居の中で描かれている作家の世界が現実の空間に出てきてひろがる」という重要な効果をもたらすものと言われている。

所長は舞台を使用した経験のある者が多かったが、だからといって紙芝居の特性理解や舞台使用の効果についての認識が深まっているとは言えな

い。今後は新人のみならず、新人を指導する立場にある所長に対しても、紙芝居の特性を理解し、舞台を使用して演じることの大切さを広めていく活動が必要であると思われる。

4.2 研修会後の新人と所長の紙芝居に対する理解の相違

図1に紙芝居に対する意識について、新人と所長による各項目の平均値の相違を示す。それぞれの項目について、1要因分散分析（参加者間）を行った結果、「C4 紙芝居を毎月のお誕生会に役立てたい ($F(1, 91) = 10.61, p < .01$)」については有意差が認められた。それ以外の項目については有意差が認められなかった。この結果から、C4以外の質問項目については、新人、所長ともに紙芝居に対する意識の相違は認められないことが分かった。

これらの調査はそれぞれの講習会終了後に行ったものであることから、講習会の受講により、紙芝居に対する関心や意欲、有用性、理解、学習への意欲が、新人と所長によらず、同様に高められたことが示唆される。一方で、「C4 紙芝居を毎月のお誕生会に役立てたい」の質問項目で、新人よりも所長の平均値が有意に低くなった理由としては、お誕生会のプログラムが各園において既に完成しており、管理職の立場としてはそれを実際に変更するのは困難であるという事情が考えられる。しかし、お誕生会という場は紙芝居を毎月継続して実施しやすい場であることから、その有効性に対する検証も必要であると考えられる。

4.3 自由記述結果による新人と所長の紙芝居に対する考え方の特徴

表6に示した自由記述の分析結果からもわかるように、自由記述の回答パターン文には紙芝居や研修会に対する否定的な意見は見られなかった。この結果は表5の「研修会後の紙芝居に対する意識」結果とも合致する。

表5および図1の結果からは、新人と所長による回答結果の相違は「紙芝居を毎月のお誕生会に

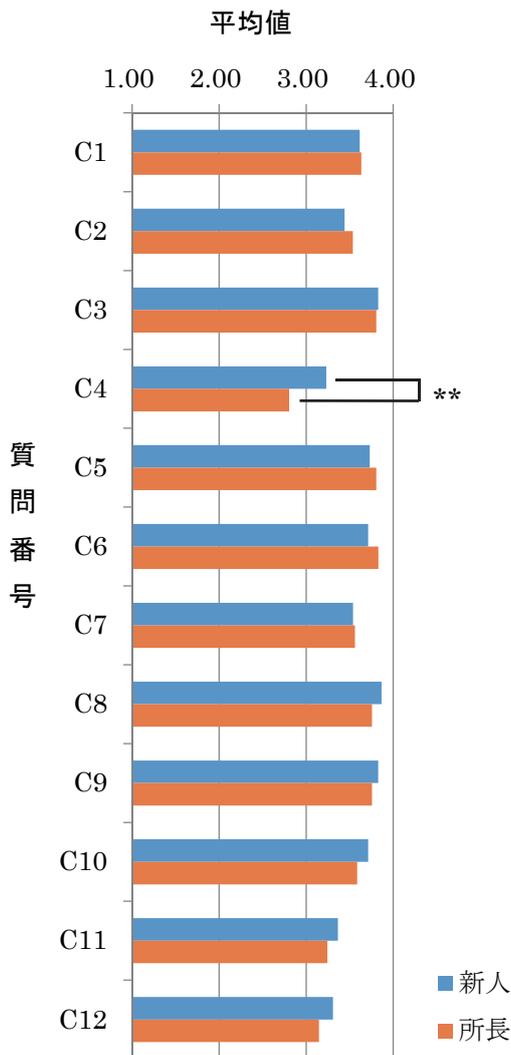


図1 新人と所長の紙芝居に対する意識の相違
* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

役立てたい」の質問項目以外は認められなかったが、自由記述による回答パターン文の回答数および回答内容には、新人と所長について次のような特徴が見られた。

(1) 保育活動に紙芝居を用いることへの関心や意欲は、新人も所長も高い

「保育活動に紙芝居を用いることへの関心意欲」の回答数は新人で32.5%、所長で17.9%と、両者とも比較的高い。特に新人は「今回学んだことを今後の活動に取り入れていきたい」とする回答数が16件あり、「所長は自らが紙芝居を実践して取り組みたい」、「紙芝居の正しい演じ方を園内で広めていきたい」とする意見が4件あった。今回のような研修会を実施することで、関心や意欲を高

める効果は両者共に大きいと思われる。

(2) 紙芝居の舞台の利用についての回答は所長に多い

「紙芝居舞台の利用」については、新人の回答には見られなかった。その一方で、所長の回答は23.1%であり、カテゴリの中では一番多かった。この理由としては、表3の結果の通り、新人で紙芝居を演じるときに舞台を使用したことの無い者が52名中44名と圧倒的に多いため、舞台についての記述も少なくなったことが推測される。一方で所長は表4の結果から41名中35名が舞台を使用した経験があるが、自由記述結果では「舞台の大切さを学んだ」とする回答が9件もあったことから、普段の紙芝居実演では舞台を有効に活用していないことが想像できる。正司(2013)は埼玉県および近隣地の幼稚園や保育園に勤務する保育者234名に対して、普段子どもたちに紙芝居を演じる際に舞台を使用するかどうかを尋ねたところ、82.1%が舞台を使用していないことを報告している。このことから、所長が舞台を使用した経験があるとしても、普段の活動では使用する機会が非常に少ないことが推察される。

これらのことから、新人のみならず所長についても、舞台を使用することが紙芝居を演じる上でなぜ本質的な意味を持つのかについての認識が深められていないことが考えられる。

(3) 新人は紙芝居の特性理解への深まりや、絵本と紙芝居の良さの違いについての記述が多い

新人の自由記述で2番目に多かったカテゴリは「紙芝居の特性理解への深まり」の18.2%であり、3番目に多かったカテゴリは「絵本と紙芝居の良さと違い」の15.6%であった。

表3の結果より、新人は、紙芝居と絵本をこれまでの保育の中で区別していなかった者が52名中22名おり、舞台を用いて演じたことがある者も8名しかいなかった。この状況から、今回の研修会では紙芝居の特性理解や紙芝居と絵本の相違など、基本的な部分での理解が進んだものと思われる。

一方で、所長による回答で多かったカテゴリは

「紙芝居への興味」や「研修会参加の感想」といったものであり、紙芝居の特性理解や絵本と紙芝居の違いに関する記述は比較的少なかった。所長クラスでは、紙芝居の特性についての理解は経験上進んでいる可能性が示唆される。

5. まとめ

保育所に所属する教職員の紙芝居に対する意識について、新人保育士と保育所長の相違に着目し、アンケート調査とその分析を行った。新人は紙芝居と絵本を保育の中で区別して活用するには至っていないのに対し、所長は紙芝居と絵本を区別して保育活動を行っていることが明らかになった。また、新人も所長も、これまでに紙芝居を演じたことがある者がほとんどであるのに対し、新人は舞台を使って演じたことのある者は少なく、所長は多いことがわかった。

また、それぞれの研修会を実施した結果、紙芝居に対する意識がどう変化したかについての調査では、新人、所長とも、紙芝居に対する有用性や特性に対する理解、今後の活用に対する意欲など、すべての項目で紙芝居に対する意識が高くなっており、その傾向は新人と所長とで大きな差は生じていないことが明らかになった。

これらの結果から、絵本と紙芝居の違いや、これらの特性の相違についての理解を広めていくためには、紙芝居の舞台の使用経験のある保育所長クラスの管理職が、新人保育士に紙芝居の特性や正しい使い方を普及する立場となり、新人に伝えていくことが重要であると思われる。さらに、両者を対象とした現職研修を開催し、新人保育士のみならず保育所長クラスの管理職にも正しい知識と技術を普及するための取り組みを続けていくことが必要であると思われる。

今回の調査では、研修会の実施前と実施後の紙芝居に対する意識の変容については測定することができなかった。研修会実施の効果を調べるためには、事前・事後調査を実施することや、研修会後の追跡調査を実施することなども有効であると

考えられる。これらの点については今後の課題としたい。

引用・参考文献

大元千種（2013）保育現場における紙芝居の活用の課題：保育学生の紙芝居経験を手掛かりとして、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 8, pp.177-188

正司顯好（2014）「紙芝居」と「絵本」の特性の違い（調査報告）—現場保育者の理解と活用、紙芝居文化ネットワーク第45号, pp. 1-3

正司顯好（2015）紙芝居の現状と課題 幼児教育における可能性—埼玉県の幼稚園・保育園を中心に実施したアンケート調査に基づいて—, 小池学園研究紀要第13号, pp.13-23

(注)

1) まついのりこ（1998）「紙芝居・共感のよこび」, 童心社, pp51-60より

正司顯好 (埼玉東萌短期大学教授)

渡邊 裕 (埼玉東萌短期大学専任講師)